

3. 津南～源内山 沿線地区

【津南～源内山 沿線地区の公共交通の現状】

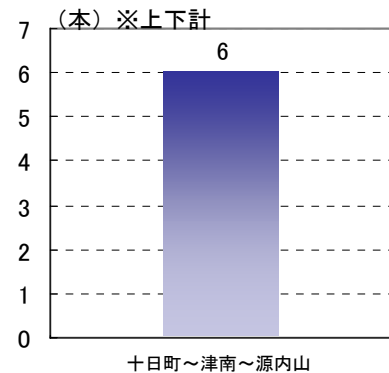
- ・ 路線バス「十日町～津南～源内山」は十日町～津南間の利用がほとんどで「津南～源内山」間の利用は極めて少ない。
- ・ 路線バスとスクールバス（津南小・津南原小）、福祉バス「ひまわりバス」の運行ルートに重複区間が存在。
- ・ 大場・所平地域はひまわりバス以外の交通手段がなく、ひまわりバスが運行しない時は公共交通空白地域となる。

●路線の概況

運行本数(平日)

十日町～津南～源内山の路線バスが1路線1系統運行。

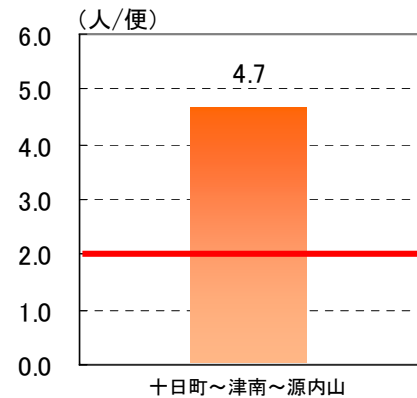
- ・ 「十日町～津南～源内山」上下計6本(3往復)



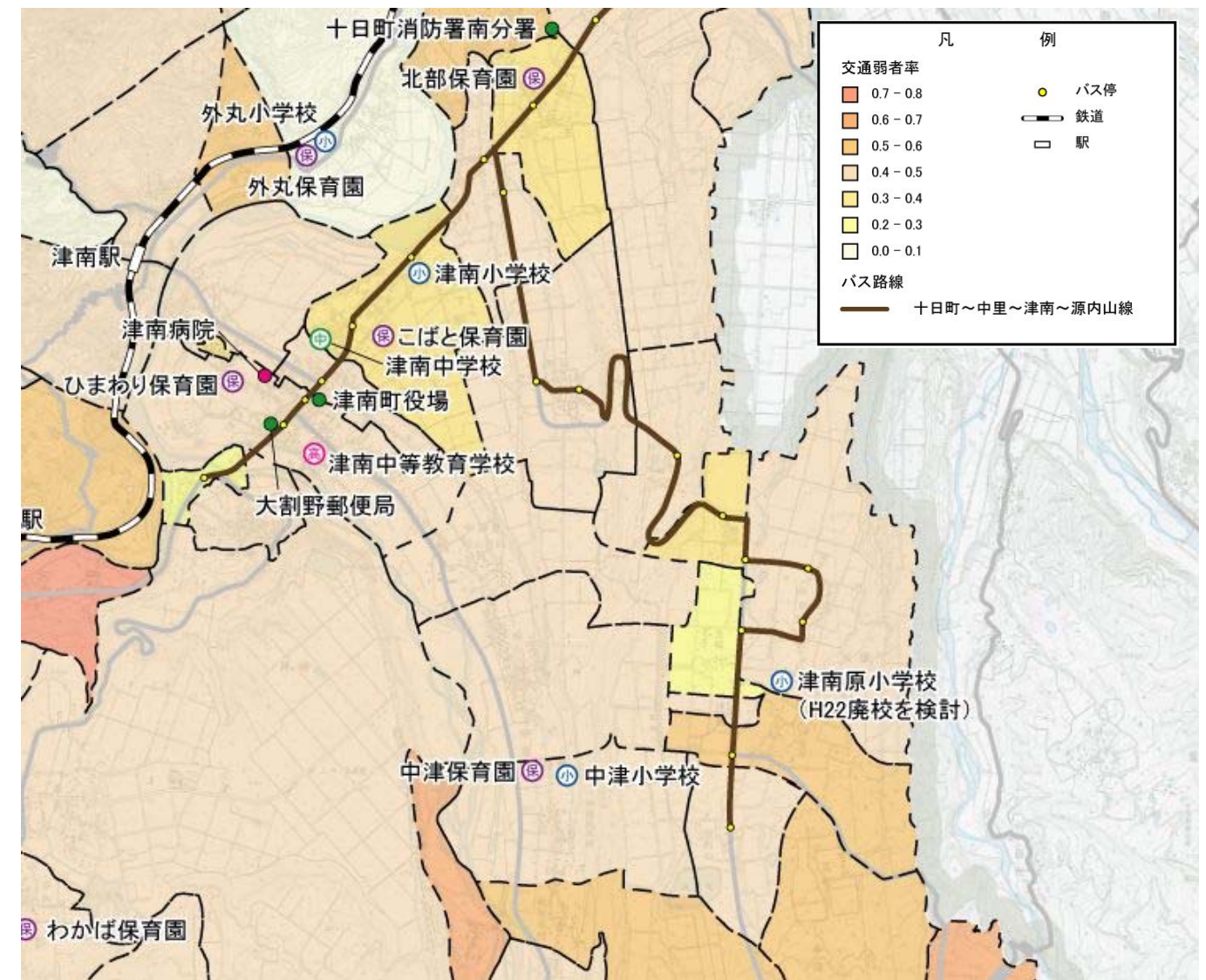
平均乗車密度

十日町～津南～源内山は平均乗車密度4.7人/便と利用率は高い。

- ・ 「十日町～津南～源内山」：4.7人/便



バス路線網(現況)



●住民ニーズ(※アンケート調査結果から問題点・課題部分を掲載)

【公共交通の満足度】

- ・ 公共交通利用者の51.8%が不満と感じている。

【具体的な不便内容】

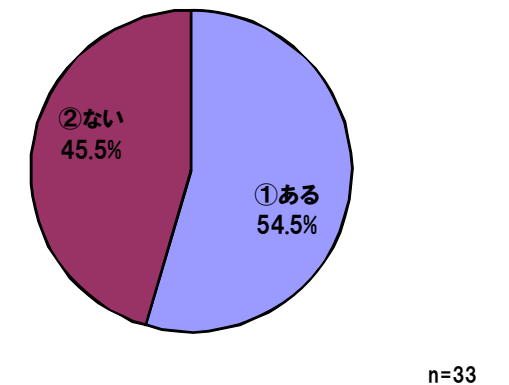
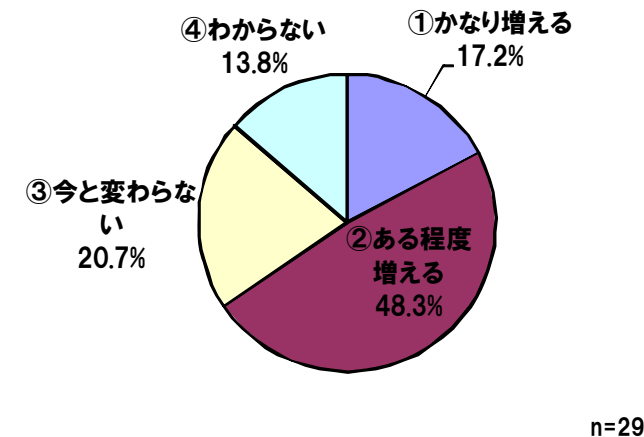
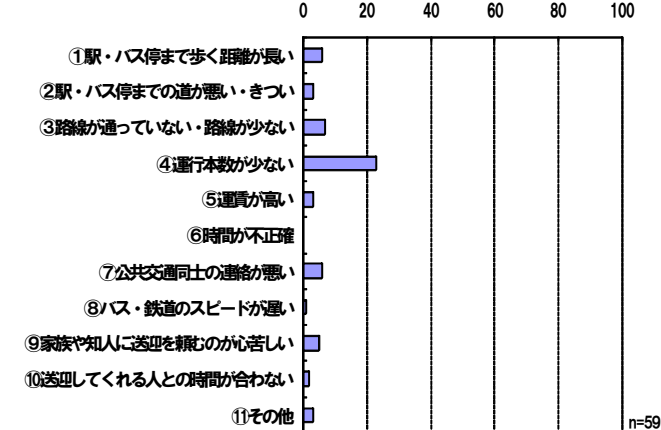
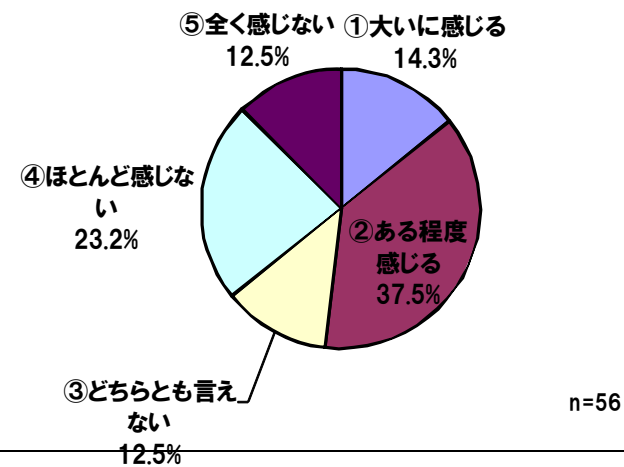
- 1位：運行本数が少ない。
- 2位：路線が通っていない・路線が少ない。
- 3位：駅・バス停まで歩く距離が長い。公共交通同士の連絡が悪い

【不便改善による利用機会】

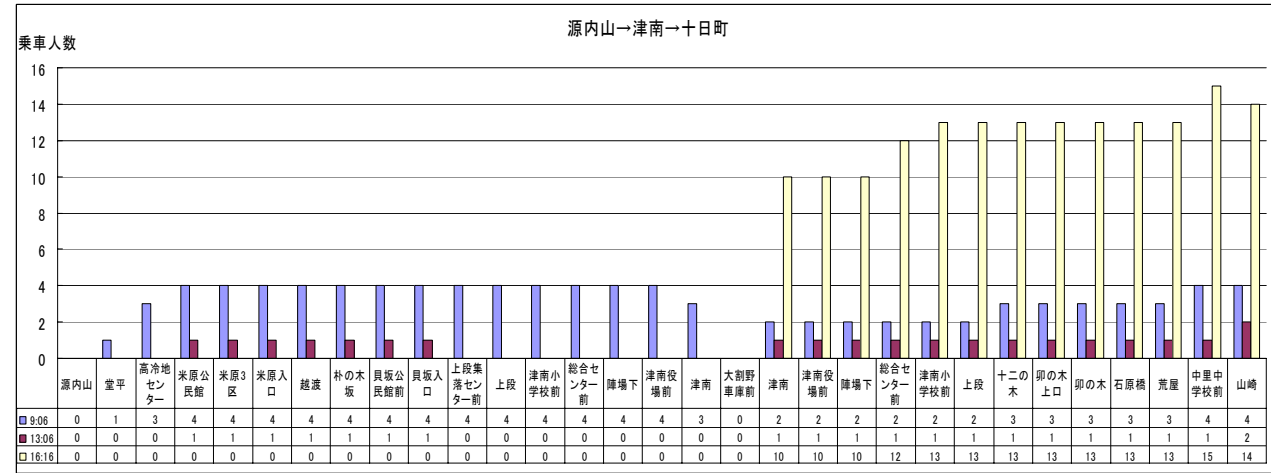
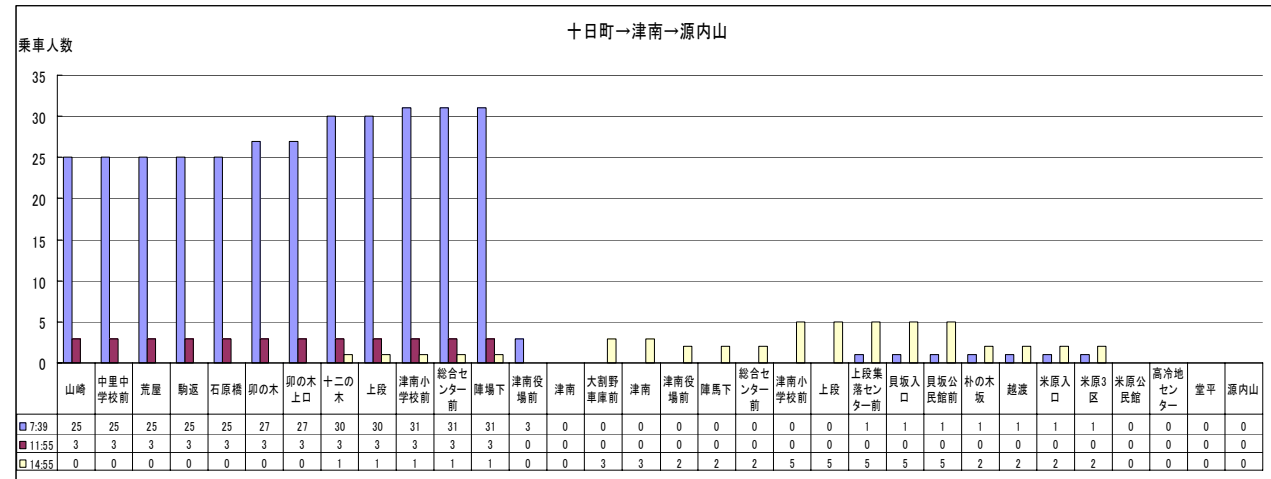
- ・ 不便改善により65.5%の方が「利用機会が増加する」と回答している。

【行き来できない施設・エリアの有無】

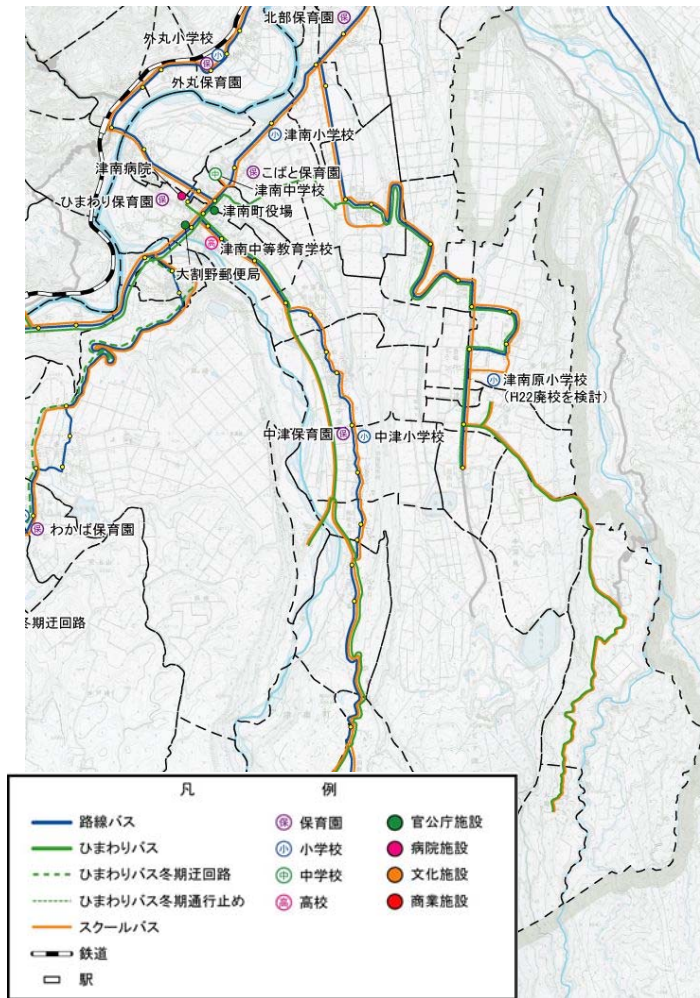
- ・ 公共交通で行き来できない施設・エリアがあると回答している方が54.5%。



路線バス乗降調査結果(H19.6 データ)



既存公共交通の重複状況



当該エリアの問題点・課題

- 【路線バスとスクールバスの重複状況】**
- ・ 朴ノ木地区小学生の津南小への登校には「ひまわりバス」、下校には「スクールタクシー」が対応し運行している。
 - ・ また、越渡地区小学生の登下校には、「スクールタクシー」が対応し運行している。
 - ・ この他、「ひまわりバス」は、源内山～貝坂公民館間で路線バスと重複し運行している。
- 【ルート重複】**
- ・ 源内山～貝坂公民館間で路線バスとひまわりバスの重複区間が存在。
- 【時間重複】**
- ・ 路線バス：源内山 9:06 発 津南 12:39 発
 - ・ ひまわりバス：源内山 9:19 発 津南病院 13:10 発 (13分差) (31分差)
- ・ このように、源内山地区においては、路線バス、スクールタクシー、ひまわりバスの路線が時間帯によって重複して運行する状況となっている。
- 【その他の状況】**
- ・ 所平・大場地区へのひまわりバス運行においては、現状タイプのバスでは冬期間の対応（雪道の運転）が極めて困難な状況となっている。
 - ・ 源内山地区のこばと保育園の園児輸送は、保育園送迎タクシーが対応している。
 - ・ 地区内の路線バスの運行補助は、源内山～津南～十日町路線の一部として位置づけられて、町予算以外で対応されている。
- 【今後予想される変化状況】**
- ・ 平成 22 年度に津南原小（源内山地区）が津南小に統合される。

当該エリアの公共交通ネットワーク見直し・再編イメージ

【公共交通ネットワークの見直し・再編】

- 方向性①：地区内の路線バスは現状を維持**
- ・ 地区内の路線バスは、源内山～津南～十日町路線の一部として現状を維持する。
- 方向性②：スクールバス運行の見直し統合**
- ・ 津南原小（源内山地区）の津南小への統合に対応し、現在運行しているひまわりバスとスクールタクシーからスクールバス輸送に転換（駒返り・卯ノ木から津南小学校への登下校時と合わせて一体的に運行する形）させる新たなスクールバス運行形態に見直し統合する。
 - ・ なお、スクールバス運行にあたっては、他地域で運行取り止め予定のひまわりバス・スクールバス車両をあてる形で対応する。
- 方向性③：乗合タクシーの新たな運行（ひまわりバスの代替交通として）**
- ・ 現在運行している「ひまわりバス」大場・所平線について、冬期の運行面に配慮し、これに代わる交通手段として、乗合タクシーを活用し運行（運行形態は、多目的で利用可能な定時デマンド方式）する。
- 方向性④：ひまわりバス運行の見直し（乗合タクシーによる代替運行）**
- ・ 上記③の変更に伴い、現在運行の「ひまわりバス」大場・所平線は取りやめの方向で見直す。

